



## 1 津波避難道路整備の発端

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の痛ましい被災を教訓にして、石川県珠洲市正院町在住の男性が「住民や子供の命を守りたい」と、近所の住民に呼びかけました。

日本海側の正院海岸線から僅か250mしか離れていない正院小学校校舎裏にある、津波一時避難場所に指定されている標高30mの殿山に、避難路整備を望まれました。殿山は、野鳥観測などで親しまれている幅1m弱の山道でありました。



殿山での津波避難訓練

早速同年5月から7月にかけて、地域の消防団や青年団、小学生など延べ283人がボランティアで参加。建設、測量、舗装など、それぞれの職業を生かして自分達で設計整備に取り組みました。資材は廃線となったのと鉄道能登線の枕木や地元で安く手に入れたものを使い、その費用は山の所有者が全て提出されました。夏場で急勾配の現地での作業は過酷な現場であります。殿山頂上まで約125mを幅2mの階段56段、急勾配を考慮して直線路

でなく高齢者や子供のためにジグザク法線とし、さらに手すりも設置した素晴らしい避難路が成し遂げられました。

行政に頼る手段もありましたが、予算獲得が厳しい状況から、自分達でやる団結心が実を結び3か月足らずでの作業でした。

## 2 地区全体への防災の取組

珠洲市の平成24年9月30日（日）に行われる防災避難訓練に伴う事前会議を行うことになり、これまでの18町内の区長が主体となっていたものに基づき今度は実働型の組織に見直しました。

活動目的：当時、正院町の世帯数は、681世帯、人口は1,705人で地区では過疎化が進む中、住民同士の和合の大切さが求められておりました。

自主防災組織では、積極的に住民同士の協力性の高揚を計り、万一、災害が発生した時には、自分達の命は自分達で守れるよう防災活動に取り組むとともに、9月30日に実施した防災避難訓練には、562名の住民が参加しました。



避難所設営訓練



吹き出し訓練

訓練は、防災士による自助・共助、地区区長による火の元・戸締まりの点検及び家族の安全、非常袋持参の確認、消防団では鐘を鳴らしての巡回及び避難場所への誘導、駐在所署員によるパトロール等が実施されました。

防災訓練前の計画に基づき、各区長は、住民名簿を作成し前もって住民の協力の賛同に努めました。

また津波のみの避難訓練ではなく、海から離れた山間部や高台地区においても地震・台風・豪雨による被災、多種多様の天災・人災をも想定した防災訓練も実施しました。

### 3 受賞の喜び

平成25年1月23日に珠洲市正院地区自主防災組織が「第17回防災まちづくり大賞」で消防庁長官賞を受賞しました。

「地域の宝を地域の手で守るために～地域による津波一時避難場所の整備～」が評価されました。

### 4 更なる訓練の歩み

#### 平成25年度珠洲市総合防災訓練

平成25年9月29日（日）正院町地区で実施

正院町自主防災組織（18町内）・正院小学校  
・正院保育所が参加。

参加者は867名（珠洲市全体では4,129名）

#### 平成26年度石川県防災総合訓練 （石川県・珠洲市）

平成26年11月16日（日）

珠洲市一円（蛸島漁港、正院小学校）で実施

主唱機関：石川県防災会議、珠洲市防災会議  
消防庁緊急消防援助隊中部ブロックと合同訓練参加機関及び参加人員：74機関6,599名  
正院地区自主防災組織参加者786名のうち正院小学校53名



救助・救出訓練

### 5 これからの過疎地を守る大切さ

珠洲市は若者が少ない家族構成の中、組織確保には苦肉の策として、多種多様の方々との集団で構成し、今後更に厳しくなるものと考察されます。現在防災士は、160地区で、女性を含めて126名となりました。我が正院町は、10名ですが増員に奮闘しております。

再度の訓練を経験して、大切な命と財産、そして故郷を守るためにも、金沢市から150 km離れた珠洲市の大過疎地には、地区防災組織力が一番大切と肝に命じました。